

終端型高周波電力計とは送信機の整合、調整、試験を行う時、実際のアンテナの代りに擬似負荷を用いますが、この擬似負荷に指示回路を設けて送信機の出力を測定出来る様にした装置です。又、この装置を用いて機器の調整、試験etcを行うと、不要な電波を発射することも無く、完全に調整、試験が出来良質な電波を発射することが出来ます。

#### 性能・特徴

1. 周波数がワイドで有る (1.9MHz~500MHz)
2. 周波数補正の必要が無い
3. 小電力~大電力迄測定出来る (測定範囲 0.5~150W)
4. 電圧定在波比 (VSWR) 非常に良い (500MHzにて1.15以下)
5. プッシュボタン式で使い易い
6. ミラー付スケールで正確に測定出来る
7. BNC型検出端子付
8. 安価である (VSWR等プロ級の性能)

#### 機構部特徴

1. M型50(N型)用接栓使用で使い易い
2. 大型高周波抵抗使用でUHF迄誤差が少ない

#### 規 格

周波数範囲: 1.9~500MHz  
 測定電力: 5W/25W/150W切替  
 インピーダンス: 50Ω  
 電圧定在波比: 1.15以下  
 指示誤差: 最大電力±10%以内  
 接栓方式: M型(N型)  
 寸 法: 270×110×175mm

#### 測定方法

図Aの様に送信機空中線出力接栓と電力計の接栓を接続し送信電力に応じた電力に電力計のスイッチをセットし送信機を動作させ、電力計の目盛を読み取ります。



#### 注意事項

1. 100W以上の電力を測定する時は連続使用を一応5分程度に止めて下さい。
2. VHF~UHFに於いては、ケーブルと接栓との接合が悪いと大きな反射が生じ指示に大きな誤差を生じることが有り注意を要します。
3. 送信機、電力計との接続、接栓は完全に奥迄差込む様にし、しっかりしめて下さい。

#### 図 B

